

明石市環境審議会意見

## ごみ減量化のための新たな効果的な施策提案

平成16年12月

明石市環境審議会

同 資源循環部会

平成16(2004)年12月6日

明石市長 北口寛人様

明石市環境審議会会長

盛岡通



### ごみ減量化のための新たな効果的な取り組みの推進について（審議会意見）

平成16(2004)年3月1日私から当審議会資源循環部会（部会長：藤原健史京都大学大学院助教授）へ付託しました表記検討事項について、部会において9月まで4回議論を重ねた結果、平成16(2004)年10月28日付、部会長から報告を受けまして同審議会にて、さらに議論を経て下記のとおり審議会として明石市長へ意見を提出いたします。なお、市財政の厳しいなか、また市の循環型社会に向けた取り組みを考えるならば環境部に止まらず、市全体で効果的な施策として展開されますよう要望いたします。

#### 1 啓発に関する取り組みについて

##### (1) 環境出前講座の新設について

今年度は、大きな収集変更のため地元説明会を開催され、そのなかで減量化の意義等についても訴えられていますが、さらにごみ対策のいろいろなテーマごとに講師陣を形成して「環境出前講座」として常設していただきたい。講師については、市職員のみにも頼るのではなく専門家に依頼したり、市民のなかから公募するなど講師の顔ぶれを多彩にする工夫も必要です。専門家や市民の講師と市職員講師が連携して、講座を開催することも有意義です。また、現在、環境政策課が行っている講師派遣事業を発展させる形で環境部全体のメニューに、さらに市全体のそれにされることも提案します。

##### (2) 集団回収の活動量拡大への取り組みの誘発について

集団回収を行っている団体の半分が子ども会ですが、役員の変更時期などを捉えて、集団回収活動を拡充するためのノウハウを学ぶことができる研修会を開催していただきたい。そうした取り組みが、回収量や活動回数が増など具体的成果に結びつけば、啓発の効果が見えると思います。さらに、毎年、年次報告のときなど当審議会にその取り組みが具体的な結果として明らかにできるように、行政のなかで目標を指標化して推進することも検討願います。

(3) 減量化リサイクル活動と環境教育の接点の拡充について

現在、幼稚園、小・中学校の一部のPTAによって集団回収が実施されていますが、総合的学習の題材として、あるいは環境教育的な要素を盛りこむことによって、地域と学校が連携してごみそのものを出さないよう、発生源の減量化・発生抑制の意識醸成やリサイクル活動を広めてゆくことを提案します。

(4) ごみ処理に関する情報センター的な機能の構築について

～現リサイクルプラザHP（インフォプラザ）の拡充について

現在、ごみとリサイクルについての啓発のためのホームページとして『インフォプラザ』を運営されていますが、ボランティアの登録や市民活動の紹介普及等に市民の側から発信された情報を入れることにより、別紙のイメージ図のように、情報センターとして双方向の受発信が可能となるようなホームページに拡充されるよう提案します。ごみ減量化や再資源化の業務や取り組みの反映としてのセンターを目指して、年次的に拡充を図っていただきたい。

2 参画と協働の観点からのごみ減量推進員制度の構築について

現在、ごみ減量化・分別徹底など再資源化についての、地域と行政の橋わたし役となる「ごみ減量推進員」や「ごみ減量推進協力員」の体制づくりに取り組んでおられますが、行政から、あるいは地域・自治会からの一方的な活動や要望の接点としてではなく、「参画と協働」の観点から将来のごみ減量化や再資源化施策について双方向で発展させてゆくしくみの構築を、1,200名という大きな体制となっているために大変な注力を入れて誠実に織り込んでいてもらいたい。

3 ごみ減量対策の進め方について（特に事業系ごみ対策について）

今年度の収集変更は家庭系ごみを対象としていますが、明石市は事業系ごみが比較的多いため、事業系ごみ対策にも重点を置いた取り組みをお願いしたい。

(1) 大規模事業所向け減量化指導からその対象範囲拡大について

現在、大規模事業所（床面積1,000㎡超の量販店、あるいは3,000㎡以上の事業用建築物所有者）に対して減量化計画書の提出、一般廃棄物管理責任者の選任等の指導業務を実施されていますが、さらに裾野を広げて、大規模事業所以外の排出事業者に対しても減量化・適正排出指導を実施していただきたい。

(2) 剪定枝チップ化リサイクル事業の検討について

現在、植木の剪定くずはシルバー人材センターや植木業者により市の処理

施設へ搬入され焼却されています。この年間焼却量は1,800トンにもなっています。基本計画の目標である焼却量の削減、リサイクル率向上を推進するためには、剪定枝チップ化リサイクル事業の構築は必要と考えます。事業化にあたってはリサイクル先やコスト等検討すべきことは多岐にわたると思われますので、資料収集に努め、前向きに検討を進めていただきたい。

なお、当該意見に至る背景等は以下のとおりです。

## I 意見の背景

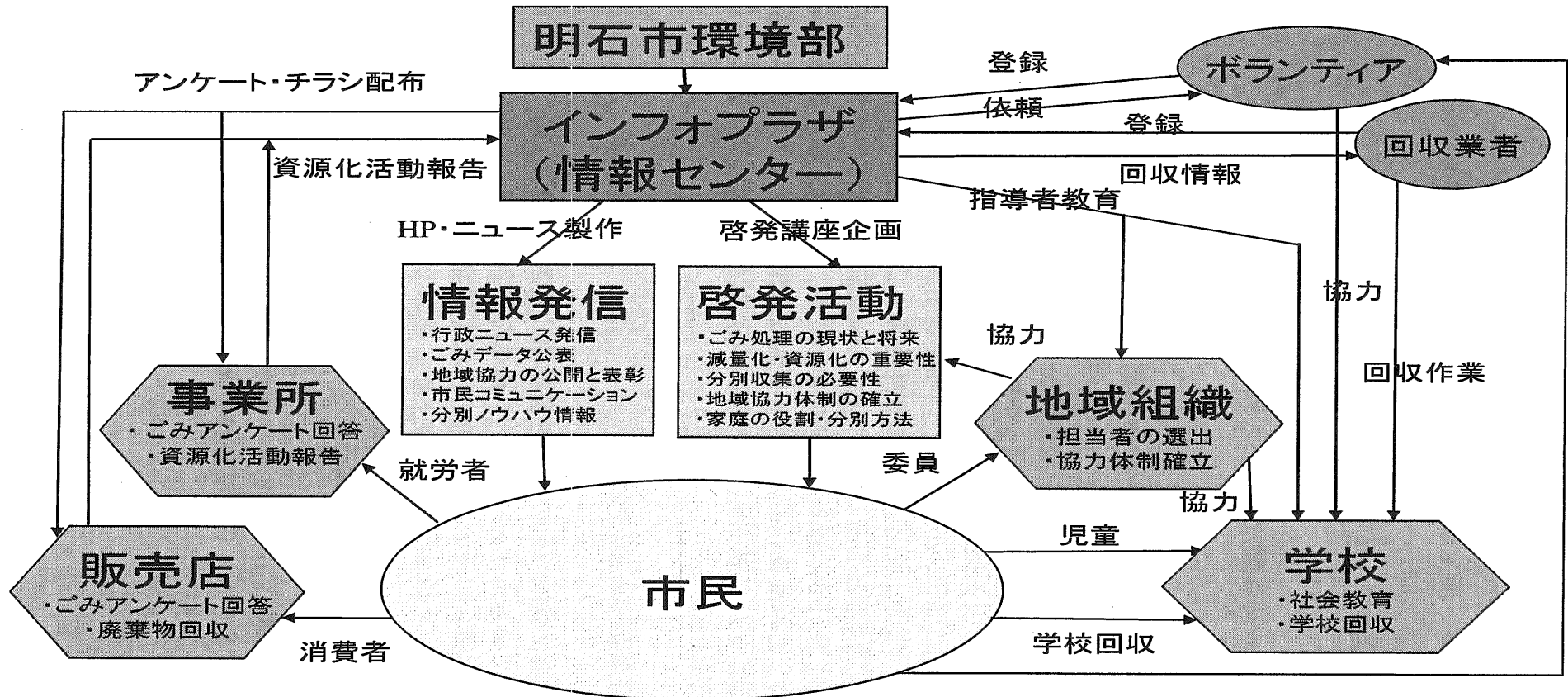
明石市では、現在、平成15年2月に策定された「一般廃棄物処理基本計画」に基づき、また、当該計画のベースとなった答申にいたる環境審議会の議論の過程を踏まえ、様々な施策を喫緊に取り組むべきものとして展開しています。たとえば、粗大ごみの戸別有料制、紙類・布類の分別収集、さらに容器包装リサイクル法によるプラスチック製容器包装類のモデル地区での分別収集については、平成16年11月実施に向け、小学校単位の地元説明会をはじめ、様々な方法での啓発に取り組んでいます。また、ごみ減量推進員・ごみ減量推進協力員の体制作りについても進めているところです。今後、これら施策実施後のアフターフォロー業務もあると存じますが、次年度以降においても、いわば、基本計画の基本理念に基づいて行う、ごみ減量化のための効果的な施策についても、引き続き継続させ、発展させることが必要です。このたびの意見は、平成17年度における施策について行うものです。

## II 部会及び審議会での検討経緯

部会では、部会に課せられた任務を長期的に議論すべきものと、当面、早急に対応を求められているものに分け、これらを部会員共通の認識にするため、まず明石市のごみ処理・リサイクル施策の現状を把握するとともに、本市資源化施設（破砕選別施設）の視察等を行いました。そのなかで、中短期的な課題（資源化向上のためのソフトウェアの取り組み）を抽出し、部会で議論して提案する素案を作成し、さらに深い議論を重ねました。（末尾に資料として部会開催状況を記載）

その後、平成16年10月28日に部会長から会長へ、意見の基となる提案書の提出を受け、11月12日環境審議会において、さらに議論を経て、ここにまとめたものです。

1の(4)のイメージ図



理念：市民は家庭だけでなく、学校・職場・地域組織などのあらゆる生活の場でごみ問題と対策に触れることが必要である。

そして、ごみをなくす、ごみをつくらない、つくらせない(発生抑制)など3Rの行動に進むことが不可欠である。

説明：・資源化はごみを集団で回収する側と回収業者との間で、情報交換が行われていることが重要である。

・回収は学校などの場所を利用する。必要に応じてボランティアに協力を依頼する。

・情報発信は積極的に行うべきであり、HPやニュースを活用する。地域や職場の協力は公開し大いに激励すべきである。

・啓発活動は地域組織(担当者)が中心となって行うべきである。

・以上の活動を管理するための情報センターが必要であろう。

平成16年10月 資源循環部会

#### IV 参考資料

##### (1) 部会開催状況

回数	開催日	議論の概要
第1回	平成16年3月1日	・部会の提案までの議論の進め方について
第2回	平成16年4月27日	・処理施設見学（破碎選別施設） ・明石市のごみ処理の現状 ・政策から処分まで問題点と課題（中短期的） ・素案に盛り込む内容について
第3回	平成16年7月6日	・提案（素案）についての議論
第4回	平成16年9月13日	・提案のまとめ論議

##### (2) 資源循環部会委員名簿

委員名	役職等	備考
藤原 健史	京都大学大学院地球環境学堂助教授	部会長
池田 邦明	株式会社ノーリツ 環境推進室長	
久保 峰子	明石市連合自治協議会会長（当時）	平成16.7.5まで
材木 龍一	明石市環境部長	平成16.4.1から
堂本 艶子	明石市消費生活研究会会長	
中野加都子	神戸山手大学環境文化学科助教授	
原田 和彦	明石市連合自治協議会会長	平成16.7.6から
森岡 清	明石市環境部長（当時）	平成16.3.31まで
和田美耶子	明石市女性団体協議会会長	

部会長以外は、五十音順（敬称略）

## (3) 明石市環境審議会委員名簿

No	氏名	役職等	備考
1	盛岡 通	大阪大学大学院工学研究科教授	会長
2	中瀬 勲	兵庫県立人と自然の博物館副館長	副会長
3	穂原 成人	市議会議員	
4	安藤 昌廣	明石商工会議所会頭	
5	池田 邦明	株式会社ノーリツ環境推進室長	資源循環部会
6	出雲 晶三	市議会議員	
7	市川 憲平	姫路市立水族館主任水生生物専門員	自然環境部会
8	碓井 信久	兵庫・水辺ネットワーク (NGO) 幹事	自然環境部会
9	大塚 毅彦	明石工業高等専門学校建築学科助教授	自然環境部会
10	大西 徹	兵庫県健康生活部環境局環境政策課長	
11	角野 康郎	神戸大学理学部生物学科教授	自然環境部会 (部会長)
12	絹川 和之	市議会議員	
13	材木 龍一	明石市環境部長	資源循環部会
14	辻本 達也	市議会議員	
15	堂本 艶子	明石市消費生活研究会会長	資源循環部会
16	富田 賢治	市議会議員	
17	中野加都子	神戸山手大学人文学部環境文化学科助教授	資源循環部会
18	新田 正彦	市議会議員	
19	橋本 芳純	川崎重工業株式会社明石事務所長	
20	原田 和彦	明石市連合自治協議会会長	資源循環部会
21	藤原 健史	京都大学大学院地球環境学堂助教授	資源循環部会 (部会長)
22	安國 庫生	兵庫県三木土地改良事務所主幹	自然環境部会
23	山根 金造	市議会議員	
24	和田美耶子	明石市女性団体協議会会長	資源循環部会

※ 会長、副会長以外は、五十音順 (敬称略)